NO.76

東海体育学会会報

2003.4

東海体育学会
〒464-8601 名古屋市千種区不老町　名古屋大学総合保健体育科学センター内
TEL.090-7692-7187　FAX.052-789-3957
[ホームページ] http://www.htc.nagoya-u.ac.jp/tspe/　E-Mail:tspe@htc.nagoya-u.ac.jp

【巻 頭 言】

体育・スポーツ科学をめぐる最近の学術情勢について

東海体育学会会長　加　賀　秀　雄

昨年11月９日～10日の両日に亘って、東海体育学会は、その創設以来刻してきた半世紀に及ぶ足跡を祝し、第50回記念大会を開催することができました。

併せて、この期に開催されたところの本大会は、世界史的に見れば、20世紀から21世紀という人類未踏の新世紀へ向けての歴史的な端緒に当って開催された大会でもあり、この中で学会創設50年の回顧と、今後に向けての学術的展望について語り合うことができたことは、二重の意味で歴史的な意義を有する大会であったということができましょう。

とりわけ、本大会を盛況裡に終えることができた背景には、いち早く理事会に設置された特別委員会における大会方針と政策課題に関する検討と、大会開催校として実行委員会の役割を自主的、創造的に果たしていただいた、名古屋大学総合保健体育科学センターの教職員及び院生の皆さんの尽力があったことを銘記しなければなりません。ここに厚くお礼申し上げます。

扨、新世紀を迎えた私たち東海体育学会は、わが国における体育・スポーツ科学に責任を負う学術団体として、自治、自由、民主主義の諸原則に則った研究者集団の目的意識的な不断の努力を通じて、新世紀が求める時代的、社会的な要請に対して、主体的、創造的に応えていかなければならない使命を担っています。

しかしながら、体育・スポーツ科学を取りまく最近の学術情勢は、好むと好まざるとにかかわらず、対峙しなければならない大きな課題を抱えて展開してきており、等閑視が許されないかたちで、私たちに迫ってきている状況も生まれてきています。

とりわけ焦眉の課題として先行してきたのは、国立大学の独立行政法人化問題であり、それは、平成13年６月文部科学省から提起された「大学の構造改革の方針」によって、さらに具体化の道へと進んできています。

すなわちこの「方針」では、国立大学に対する民間の経営手法の導入による、管理運営体制の活性化、効率化が意図され、すでに来年度よりその具体化が明示されるところとなっており、それに対する各大学の対応が不可避となる厳しい状況が現われるに至っています。

また各国立大学の将来への発展を意図するものとして、その組織的な基盤強化のために、「大胆かつ柔軟な発想」に立つ施策として、大学間の再編・統合も意図され、すでにその動向は平成14年度から始まり、平成15年度には10組20大学の再編・統合が具体化する運びとなってきています。

さらに第三者評価の導入を実施することによって、国公私立大学を通じた競争的な環境を醸成して、わが国の大学における教育、研究の向上による「世界最高水準の大学づくり」が目指され、すでに平成14年度から「21世紀COEプログラム」、そして平成15年度からは「特色ある大学教育支援プログラム」の政策化が具体化を見る見通しとなっています。

こうした国公私立大学に対する教育行政による政策的な対応は、過ぐる大学教育改革期をはるかに凌駕する動向となって、具体化してきているものといわなければなりません。このような状況の中で、私たちは、大学が担わなければならない歴史的な使命である自治、自由、民主主義の諸原則に則って自らを律しつつ、時代的、社会的な要請に積極的に応えていくことが重要です。そのためには、大学における一学部、一学科、一課程といった課題認識から、大学総体としての課題認識へと発想を転換し、その中で

個別課題を研究者集団の総意にもとづいて、自主的、創造的に克服していくという主体的な立場が、全学に向かって提起されていくことが、私たちにとっては喫緊の課題となってきているのではないでしょうか。

さらに、私たちの専門分野である体育・スポーツ科学分野においても、取組まれなければならない理論的、実践的な課題が生起してきています。

それは、平成12年９月、わが国におけるスポーツの振興に関する基本方針を規定したところの「スポーツ振興基本計画」が策定を見たということです。いうまでもなくそれは、平成13年度から同22年度に亘る10ヶ年間の到達目標や、諸施策が定められたものであり、とりわけ、「生涯スポーツ社会の実現に向けた地域におけるスポーツ環境の整備充実方策」、「わが国の国際競技力の総合的な向上策」、「生涯スポーツ及び競技スポーツと学校体育・スポーツとの連携を推進するための方策」等が、その政策的な基調となって展開されようとしています。

そして、平成14年９月には、中央教育審議会による「子どもの体力向上のための総合的な方策について」の答申がなされました。そこでは、「子どもの体力の現状」、「子どもの体力向上の目標」、「子どもの体力低下の原因」、「子どもの体力向上のための総合的な方策」等、現代社会における子どもと体力問題が、答申の中心的な内容構成となって提起されてきています。

さらにまた、平成14年11月には、中央教育審議会がその中間報告として行った、「教育振興基本計画の策定と新しい時代にふさわしい教育基本法の在り方」の中においても、「21世紀を切り拓く心豊かでたくましい日本人の育成」を目ざして。「豊かな心と健やかな体を備えた人間の育成」を、これからの教育の目標の一つに位置づけるべきであるとの明示がなされています。

最後に、近年における大学進学人口の低落傾向が顕在化する中で、大学設置・学校法人審議会の答申にもとづいて、平成15年４月には、早稲田大学にスポーツ科学部（スポーツ医科学科 定員200名、スポーツ文科学科 定員200名）が学部増化され、同時に、びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部（生涯スポーツ学科 定員100名、競技スポーツ学科定員80名）も新設されるに至る状況も生まれてきています。

このように、体育・スポーツ科学をめぐる内外に亘る多様な学術情勢の展開の中で、不可避的にそれと対峙しなければならない状況が、私たちに求められてきているのが今日的な特徴といわなければなりません。その意味で、東海体育学会に結集されている会員の皆さんが、それぞれの持場において、21世紀へ向けての時代や社会の要請に応えうる大学づくりへの参与と、体育・スポーツ科学の新たなる展望を切り拓いていっていただく上で、その先導的な役割を果たされ、限りなく健闘していただくことを衷心より念じつつ結びといたします。

【理事会報告】

平成14年度第１回～７回理事会活動の概要報告

理事長　寺　田　邦　昭

新役員（2002.1.1～2003.12.31）による、平成14年度の理事会活動の概要を、議事録から抜粋して報告します。

第１回理事会　開催日：１月12日（土）
於　：南山大学

審議に先立ち、加賀会長の挨拶がなされ、次いで、新理事長選挙が実施され寺田理事を新理

事長に選任した。

1．会長推薦理事について、会長から小沢教子会員（名古屋女子大学）、加藤恵子会員（名古屋文理短大）を推薦したい旨提案があり承認した。

2．理事の役割分担について、以下のように分担することとした。（○印は、委員長）

企画委員会：○穐丸、梅村、小沢、庄司、坪田、鶴原、武藤、山本

広報委員会：○島岡、池上久、石垣、花井、脇田

編集委員会：○藤井、池上康、大桑、加藤、永田、峯村、守能、吉田

学会大会委員会：○桜井、池田、北川、小林

庶務委員会：○西田

会計委員会：○山本裕

また、監事及び庶務・会計幹事については、会則により、秦真人会員（愛知学泉大学）と鶴原香代子会員（愛知淑徳大学）監事に、高橋義雄会員（名古屋大学）と片山敬章会員（名古屋大学）が庶務・会計幹事に会長から委嘱され、これを了承した。

3．50回記念大会について、藤井記念大会特別委員会委員長から構想（案）が、宮村記念大会実行委員会委員長からプログラム（案）が提案され承認した。50回記念大会では参加費1,000円を徴収し、参加費を払ったものは会員外でも演者または共同研究者になれることとしたが、記念大会以後の大会参加費の徴収ならびに発表資格についてはさらに検討することとした。

4．平成13年度決算について、会計委員長から、平成13年度の決算で27万円程度の赤字になることが報告され、その分をとりあえずは50回記念大会特別会計予算から支出し、平成14年度予算において赤字分を処理し、予算を見直すことを了承した。

5．平成13年度学術奨励賞について、池上選考委員長から、第49回大会における学術奨励賞選考結果が報告され、平成13年度については該当者なしとすることとした。

第2回理事会　日時：平成14年3月2日（土）
於　：中京大学名古屋キャンパス

1．平成16年度日本体育学会当番校について、担当する中部ブロックには東海支部以外、新潟支部、北陸支部、長野支部があり、過去の経緯から長野支部を第一候補として推薦することとした。なお、長野支部が担当拒否の事態に備え、東海支部としては静岡大学を候補とし検討して頂くこととした。（昨年末、長野支部に決定した。）

2．平成13年度決算報告及び平成14年度予算の修正について、収支決算書には計上されていない支出があり、実質は赤字決算であることが報告された。なお赤字の原因については会員減少による収入減、『東海保健体育科学』印刷費の増加、事業の拡大が考えられる。健全な財政を保持するために『東海保健体育科学』印刷費の削減、基金の取り崩し、各種委員会の予算の削減、郵送費の削減、50回記念大会開催校への補助金の削減などが提案され、当面は各委員会で支出を極力押さえることを申し合わせた。

3．平成14年度事業計画について、各委員会より報告があり、これを承認した。（詳細については、各委員会報告を参照されたい）

4．平成15年度東海体育学会当番校について、当該年度が理事選挙の年に当たる為、愛知県下での開催校として名城大学に要請することとした。

第3回理事会　日時：4月20日（土）
於　：中京大学名古屋キャンパス

1．　平成15年度東海体育学会当番校を名城大学に、当番大学担当理事として冨岡徹会員〔会長推薦〕とすることを承認した。

2．発育発達・測定評価分野の主催する講演会「身長からみた体力・運動能力における回帰評価の歴史的変遷」を東海体育学会として後

援することを承認した。

3．20年来継続している東海体育学会研究セミナーを中断させぬ様、第４回～６回の課題研究発表会のいずれかを、「研究セミナー」と兼ねて実施したい旨の提案があり、これを承認した。

第４回理事会　日時：平成14年4月20日（土）
於　：中京大学名古屋キャンパス

1．50回記念大会の正式呼称を「東海体育学会第50回記念大会（略称は50回記念大会）とすること、市民公開シンポジウムのシンポジストには蒲生氏（中部大学）、高橋氏（中京大学）、山田氏（西陵商業高校）を、女性シンポジストについては日程の都合で見合わせることが報告されこれを了承した。また、研究交流委員会（歴史・社会学分野企画）のミニシンポジウムについては、「ワールドカップ」をテーマとし、丸山氏（県立大学）をまとめ役として進めていくこと、シンポジウム（情報と身体）については、２名のゲストスピーカー（甲野氏（武術研究家）、長谷川氏（球技指導者・桐朋学園大学講師））を予定していることが報告され、これを了承した。

2．日本体育学会代議員の選出については、本学会選挙管理委員会が代議員の選挙管理にあたることとし、６名の理事（藤井、穐丸、島岡、桜井、山本、西田）及び庶務幹事（高橋、片山）で選挙管理委員会を構成することを了承した。

3．東海体育学会第51回大会の日程について、平成15年11月９日（日）を第一候補、10月26日（日）を第二候補として進める予定であることが提案され了承した。

4．会報の発行について、昨年度発行予定の会報第75号の発行及びその支払いが今年度において執行されたため予算不足が生じ、76号の今年度発行を中止したい旨の提案があり承認した。このことに関連し、今後、会報の発行は年１回とし、会員に対する情報提供には学会誌や学会ホームページ、会員宛メール等を有効に活用すべきとの種々提案がなされ、取敢えず、会員に対し、本学会事務局へメールアドレスを登録して頂くよう呼びかけることとした。具体的には、今回の代議員選挙に関して送付する封筒に、メールアドレス登録方の依頼文書を同封し、登録されたメールアドレスは学会事務局からの情報提供のみに使用することを明記した上で、会員に登録要請をすることとした。また、学会ホームページについては、サーバーを事務局のある名古屋大学に移したいとの提案があり、これを了承した。

第５回理事会議　日時：平成14年9月7日（土）
於　：中京大学名古屋キャンパス

1．日本体育学会東海支部選出代議員選挙の結果、加賀秀雄会員、北川薫会員が東海支部の代議員として選出され、結果を日本体育学会選挙管理委員会に報告した。

2．会員のメールアドレス登録数は138名であるとの報告に加え、今後、研究交流委員会の協力を得て、研究交流委員会の把握しているメールアドレスを利用できるよう働きかけて行きたいとの報告があった。また新入会員には入会の時点でメールアドレスを登録していることが報告され了承した。

3．50回記念大会について、発表申込者が申込締切日を控えても極めて少なかったため、締切日を一ヶ月延長したことが報告され、これを事後承認した。また、参加費未納の発表者の対応について、演題数のこともあるため、今回は発表資格を取り消すことなく、今後徴収していくことで解決したいとの提案や、ミニシンポジウムⅡに、新たにスポーツジャーナリスト辛仁夏氏（韓国）を追加したい旨の提案があり、いずれも承認した。

4．「東海保健体育科学」の装丁等について、理事の意見をもとに編集委員会に一任することとした。

第６回理事会　日時：平成14年10月5日（土）
於　：中京大学名古屋キャンパス

1．日本体育学会理事選挙の結果、東海支部選出の北川薫代議員が理事に選出されたため、次点の池上康男会員を東海支部選出の代議員に追加した。
2．東海保健体育科学Vol.24、「実践研究」の扱いについて、『体育学研究』の基準に照らし「資料」が妥当であると判断し、投稿者、査読者の了解を得て「資料」とすることとした。なお、東海保健体育科学の基準については来年度の課題とすることとした。
3．ミニミニ企画スポーツ支援事業部の支援協力申し出について、審議の結果、支援を受ける契約を締結することとした。なお、契約の際に税務に関し適切な処理を行うこと、並びに当該支援が東海体育学会の自律した活動を何ら制約するものでないことを前提とすることとした。
4．東海体育学会50周年記念誌の発行について、東海体育学会50周年記念行事費用の中から100万円が確保されていることを確認した。
5．50回記念大会に関し、「ミニシンポジウム」は「シンポジウム」の名称に変更すると共に、ⅠとⅡのテーマの整合性の観点から、Ⅰのテーマを「実践的研究データの今日的活用を探る」－身体情報の評価と課題－とした。また、11月10日の「シンポジウム」は「市民公開シンポジウム」に名称変更することとした。
6．庶務委員長より、東海体育学会学術奨励賞選考内規について、現行の会則との整合を図るための改正案が示され、審議の結果、承認した。
7．50回記念大会の講演会講師の謝金については、現行通り支払うこととし、司会には支払わないことを確認した。

第７回理事会　日時：平成14年11月9日（土）
於　：名古屋大学シンポジオン

1．「東海保健体育科学」の学術刊行物申請について、認可は来年以降になることが報告され、了承した。
2．50回記念大会の総会について、議長団推薦者として八木規夫会員（三重大学）、蛭田秀一会員（名古屋大学）を決定した。また、事業報告・事業計画については、会計、広報、企画、編集はそれぞれ担当委員長が説明・報告することとし、その他の委員会に関しては、理事長が一括して実施することとした。
3．シンポジウム演者である甲野善紀氏の書籍を会場で販売させたい旨の提案があり、了承した。
4．教育シューズ振興会に対し、これまでの長年に亘る支援に対しての感謝状を贈呈することが提案され、了承した。
5．研究交流委員会（バイオメカニクス分野）主催の講演会の後援について提案がなされ、これを承認した。

以　上

【委員会報告】

企画委員会活動報告

企画委員会委員長　穐　丸　武　臣

Ⅰ　平成15年度　企画委員会　事業計画

本年度は第50回東海体育学会総会で承認された以下の活動方針に基づいて積極的に活動します。

1．東海体育学会研究セミナーの開催
2．講演会の主催および後援を行う

3．研究交流委員会の開催とその活性化をはかり支援する
4．学会奨励賞受賞候補者の選考委員の派遣を行う
5．その他

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

1．東海体育学会研究セミナーの開催

1）テーマ：「ジェンダーとスポーツ」
2）日　時：03年6月21日(土)
14時～16時30分
（この後、懇親会予定）
場　所：中京大学又は南山大学の予定
3）シンポジウムテーマと講師
①基調講演テーマ
「ジェンダーとは何か」
演者：水田 珠枝（名古屋経済大学）
②シンポジウム
「体育・スポーツにおけるジェンダーをどのようにとらえるか」
演者：來田 享子（愛知学泉大学）
「体育科教育におけるジェンダー・フリー教育推進の実践」
演者：成瀬　徹（愛知県立 猿投農林高校）
「競技スポーツにおけるジェンダー」
－陸連セクシャルハラスメントのガイドラインをめぐって－
演者：勝亦 紘一氏（中京大学）

2．講演会の開催および後援

①学会時の講演：演者・演題未定
②分野別交流委員会主催の講演会等の後援

3．研究交流委員会の開催と活動の活性化

・課題研究シンポジウム開催時に研究交流委員会を開催する
研究交流委員会：2003年6月21日（土）
午後12時00分～13時30分
場　所：中京大学又は南山大学の予定
尚、保健分野の研究交流委員は坂田利弘（愛知教育大学）氏から石垣　亨氏（愛知県芸大）isshy@mail.aichi-fam-u.ac.jpに交替いたしました。

Ⅱ　14年度の事業報告

（詳細はホームページを参照してください）

平成14年度の事業計画に基づき、以下の事項について活動をした。ご協力いただいた皆様の御協力に感謝いたします。

1．課題研究「情報と身体」の推進について

昨年度より取組んできた課題研究「身体と情報」の研究会は南山大学を会場に実施された。
第2回　情報化社会と身体教育（02年1月26日）
第3回　老いと身体（02年3月16日）
第4回　発達と適応（02年5月18日）
第5回　情報とスポーツ（02年7月13日）
第6回　コミュニケーションと身体（02年9月21日）

2．東海体育学会研究セミナーの開催について

本年度は企画委員会主催の課題研究・第5回の情報とスポーツを学会研究セミナーとして実施した。
開催日：2002年7月13日（土）
会　場：南山大学
テーマ：「メディア情報とスポーツ」
司　会：大桑哲男（名古屋工業大学）
1．メディアが造ったスポーツ
演者：來田享子（愛知学泉大学）
2．スポーツマネージメントと
マルチメディア社会
演者：高橋義雄（名古屋大学）
3．遺伝子研究とスポーツ
演者：下村吉治（名古屋工業大学）

3．第50回東海体育学会における講演会の開催について

東海体育学会の記念講演として50年間の歩と今後の課題について会長講演を行った。
テーマ：「新世紀へ向けての新たなる飛躍をめざして　－東海体育学会50年の歩から－」
講　師：加賀秀雄　学会会長
期　日：2002年11月9日
場　所：名古屋大学

4．研究交流委員会主催講演会の後援について

1）発育発達・測定評価部会主催の講演会に

ついて

テーマ：「身長からみた体力・運動能力における回帰評価の歴史的変遷」

講　師：青山昌二（元 東京大学、三重大学、武蔵野女子大学教授）

期　日：7月27日（土）

場　所：愛知大学（車道校舎）

2）バイオメカニクス部会主催の講演会

演　題：「研究成果を現場のコーチングに活かす」

演　者：Ross Sanders氏（エジンバラ大学）現在国際バイオメカニクス学会（ISBS）会長

期　日：12月2日（月）

場　所：愛知教育大学

5．研究交流委員会の開催と活動支援について

1）研究交流会の開催

2001年度の活動報告と今後の計画および第50回東海体育学会におけるミニシンポジウム企画について検討を行った。

期　日：02年5月18日（土）

場　所：南山大学

2）第50回東海体育学会シンポジウムの開催

研究交流委員会が企画したシンポジウムは二つのテーマで行った。

①**シンポジウムⅠ**（豊田講堂第一会議室）

歴史・人類・社会・教科研究グループ

テーマ：「日韓共催W杯は日本のサッカーをどう変えたか」

司　会：丸山 真司

演　者：高橋 義雄（名古屋大学）

辛　仁夏（ジャーナリスト）

堤　吉朗（扶桑小学校）

②**シンポジウムⅡ**（シンポジオン1階ホール）

発育発達・測定評価研究グループ

テーマ：「実践的研究データの今日的活用を探る！」－身体情報の評価と課題－

司　会：酒井 俊郎（浜松短大）

演　者：久世 早苗（岐阜高専）

村瀬 智彦（愛知大学）

池上 久子（南山大学）

③**第50回東海体育学会市民公開シンポジウムⅠ**（シンポジオン1階ホール）

課題研究「情報と身体」

テーマ：「古武術から見る21世紀の身体性」

司　会：山本 裕二（名古屋大学）

演　者：甲野 善紀（松聲館）

長谷川 智（桐朋学園）

体育史・スポーツ人類学研究交流会　活動報告

文責　田原 淳子（中京女子）

研究交流会の開催（5回、うち2回は東海体育学会 学会大会への出席等に振替）

1．日時：2002年4月27日（土）午後2時～5時

場所：中京大学八事校舎小会議室

内容：

【報告1】「英国に残存する民俗フットボール　－その多様性、暴力性、ゲームの意味、存続と消滅など－」（名古屋短期大学　吉田 文久）

【報告2】「課題研究『身体と情報』の発表に向けて　－発表趣旨とその内容づくり－」（愛知学泉大学　來田 享子）

【その他】

(1)会費徴収について

世話人から会費徴収の意図が話され、参加者の間で了解された。

(2)会場について

木村先生のお骨折りにより、今回中京大学八事校舎小会議室を借用することができた。今後も可能な限り借用させていただくことを了解いただいた。

2．日時：2002年6月29日（土）午後2時～5時

場所：中京大学八事校舎小会議室

内容：

【報告1】メディアとしての運動会　－運動会史研究から－（中京大学　木村吉次）

【報告２】情報メディアと日本野球の展開（愛知学泉短期大学　秦　真人）

【報告３】ラジオが伝えた健康法－ラジオ体操の普及－（東京女子大学　曽我芳枝）

【報告４】日本女子スポーツ連盟の女性スポーツ促進運動にみる情報伝達（愛知学泉大学　來田 享子）

【その他】7月13日に予定された東海体育学会主催「課題研究『情報と身体』」における本研究交流会からの話題提供方法とその内容について、上記４題の報告をもとに行うことなどを話し合った。

３．日時：2003年2月22日(土)午後2時～4時30分
会場：中京大学　八事校舎
11号館（本館）4階　第2会議室
内容：

【報告１】わが国における婦女子の服装改革について－明治期におけるE.ベルツの提言に着目して－（同朋大学　頼住一昭）

2003年2月8月の定例研究交流会は、7月13日の東海体育学会「課題研究『情報と身体』」の出席に、10月の定例研究交流会は、11月9日、10日の東海体育学会第50回記念大会の出席にそれぞれ振り替えることとなった。

東海発育発達・測定評価分科会活動内容

文責：花井 忠征（岐阜聖徳学園大学）
鶴原香代子（愛知淑徳大学）
村瀬 智彦（愛知大学）
藤井 勝紀（愛知工業大学）

平成14年度の分科会としての活動は、昨年度から続いている東海体育学会課題研究「情報と身体」において、我々分野から花井忠征（岐阜聖徳学園大学）、春日晃章(岐阜聖徳学園短期大学)、藤井勝紀(愛知工業大学)の御３人の先生方に演者を務めて頂き、無事終了することが出来ました。東海体育学会の活性化に微力ながら貢献させていただいたのではないかと思います。また、例年のように分科会の研修会を企画しました。その概要は以下に示します。

＜研修会＞

ゲスト：青山昌二（元 東京大学、三重大学、武蔵野女子大学教授）
テーマ：身長からみた体力・運動能力における回帰評価の歴史的変遷
日　時：7月27日（土）午後
場　所：愛知大学（車道校舎）

多数の方に参加していただき有意義に過ごすことが出来たと思います。終了後も懇親会を開き、東海体育学会会長の加賀先生、理事長の寺田先生にも参加していただき、非常に活発な意見交換が出来たのではないかと思います。

次に、東海体育学会50回記念大会ではシンポジウムを企画しました。その内容は以下に示します。

テーマ：「実践的研究データの今日的活用を探る！」－身体情報の評価と課題－
司　会：酒井 俊郎（浜松短大）
演　者：久世 早苗（岐阜高専）
「女子スポーツ選手の初経遅延に関する問題提起」
村瀬 智彦（愛知大学）
「身体発育発達データの収集とそれに関わる諸問題」
池上 久子（南山大学）
「質問紙法調査から得られる高齢者のQOLを高める基礎的研究」

【主　旨】

発育発達、測定評価分野では、体育、スポーツに関わる事象を、どちらかといえば計量的データ情報として収集、解析し、それらの結果を体育、スポーツ現場に還元することを常に模索している学問領域と言える。もちろん他の分野でも共通していることであるが、臨床的なアプローチとは異なり、多くのデータ情報から結果

を導くことが要求される。そのためにはデータ収集のあり方、また客観的な解析手法が不可欠となる。しかし、このような問題点に関してすべて解決されているわけではない。依然としてデータ収集の課題は存在するし、解析手法に関しても統計手法がすべて万能ではない。

そこで、発育発達、測定評価分野では、東海体育学会の組織において分科会を4年前に結成し、このような問題点を解決するための推進研究として位置づけた。この推進研究の中で、データ収集のあり方を検討し、そして、データ情報に適した解析手法を模索し、如何にそこから導かれた結果を体育、スポーツ現場への還元を提示するかを論議してきた。今回のシンポジウムはその成果の集大成として発表されるものである。

以上のような内容でシンポジウムが開かれました。予想以上に多くの方に参加していただき、発表内容の充実はもちろん、発表終了後の討論でも活発に議論でき、東海体育学会50回大会と言う記念すべき日に花を添えることが出来たのではないかと思います。

最後に、今年は「日本発育発達学会」も発足した年であり、第1回大会が東京大学で開催されました。東海発育発達・測定評価分科会としては、当初から推進研究の1つとして幼児に関する研究を掲げてきました。それをこの記念すべき第1回大会で発表することになりました。穐丸武臣氏（名古屋市立大学）を中心に、花井忠征（岐阜聖徳学園大学）、酒井俊郎（浜松短期大学）、村瀬智彦（愛知大学）、春日晃章(岐阜聖徳学園短期大学)、斉藤由美（名古屋造形芸術短期大学）、藤井勝紀(愛知工業大学)氏等が共同研究者として参加し、穐丸、藤井氏はシンポジウムでの発表、花井、酒井、春日氏は一般発表を行いました。

以上のように、徐々にではありますが分科会としての活動も定着してきたように思います。これからも東海体育学会発展のために微力ではありますが分科会として貢献させていただきます。

体育方法学部会の活動報告

文責：梅垣 浩二（舞鶴高専）

昨年度から今年度にかけて、東海体育学会課題研究「情報と身体」の第1部「情報と身体教育」において、体育方法学から静岡大学の岡端隆先生に「スポーツ運動学から見た動きのコツ」について講演いただきました。『「私のコツ→私一般のコツ→私たち一般のコツ」と高められた時にはじめて運動技術というものが見えてくる。指導者と学習者がお互いに動きのコツを共有や理解するためには、動きを直感し（感じたことを感じたまま受けとめる）動きを共感する（感じたことを感じたまま伝える）ことが大事である。その例として、体操競技ではさまざまな機能語（やっている本人が感じている表現、あふる、とる、きめる、ぬく、あてる、かえす、おとす、はずす、つる、ふくむ、など）が用いられている。』このような内容でした。スポーツ運動学が専門でない方にもわかりやすく解説いただけました。

来年度の計画については未定です。現在方法学分野からは私一人ですので、ご協力を依頼した方にぜひともお受けいただきたく存じます。

バイオメカニクス部会の活動報告

文責：合屋 十四秋（愛知教育大学）

今年度は以下のような講演会を開催しました。筑波大学体育科学系の客員教授として招聘されていたロス．サンダース氏（Professor Ross H Sanders）を迎え、愛知教育大学の保健体育講座講演会とドッキングという形で実施させていただきました。講演の演題は「研究成果をいかに現場のコーチングに生かすか？」－バイオメカニクスの立場から－でした。既に皆さんもご存じのように氏は前スポーツバイオメカニクス学会会長（ISBS）を歴任され、雑誌「Sports Biomechanics」の発刊に寄与され、現

在、編集長を務められています。オーストラリアはシドニー生まれ、ニュージーランドオタゴ大学を経て、エジンバラ大学スポーツ科学講座教授としてコーチや選手に最新の研究成果を還元するためのCoaches' info serviceなるHPを主催するなど、常にコーチング現場と研究者との橋渡しに取り組む行動派研究者として知られています。

その詳細は以下のHome Pageを参照してください。

http://www.education.ed.ac.uk/swim/

講演は、わかりやすく、ゆっくりと話してもらうことになっていましたが、限られた時間と多くのスライドのため、我々を含め学生、院生にはかなり厳しかったようです。また、中京大学からも大学院生の参加があり、約70名と盛会でした。内容は主として、氏が現在携わっているCARE（Center for Aquatic Research and Education）の施設、設備の紹介、運営方法、研究内容とその情報のフィードバック方法と実践への貢献方法などスライドによる視覚的なものであったので、学生にはある程度理解できた？と思います。また、学生や院生にとって、このような外国の研究者の生の講演が聴けるチャンスは滅多にないので非常によい経験であったのではないかと思われます。ご協力いただいた方々に紙面にてお礼申し上げます。

運動生理分野の活動報告と来年度の計画

文責：石田 浩司（名古屋大学
総合保健体育科学センター）

運動生理分野は例年のごとく、主だった活動をしておりません。ひとえに世話人の怠慢と毎年のように反省しております。毎年、運動生理分野で所有設備などが記載された精細な名簿を作ろうと思っているのですが、会員のメールアドレスが把握しきれないため、遅々として作業が進みません。これをお読みになっている運動生理分野の方で、まだメールアドレスを登録されていない方は、至急、ishida@htc.nagoya-u.ac.jpまでメールアドレスをお知らせください。

本分野の今年度の少ない活動のひとつとして、平成14年7月13日に開催された、本学会の課題研究「情報と身体」の「第3部、情報とスポーツ」の「メディア情報とスポーツ」兼東海体育学会研究セミナーにおいて、運動生理の立場から、世話人のひとりである名古屋工業大学下村吉治先生が、「遺伝子研究とスポーツ」についてお話をされました。現代科学の最先端である「遺伝子」と運動・スポーツとの関わりをわかりやすく説明され、非常に有意義なお話でした。同じ運動生理分野でもマクロ（大まか？）な立場から研究を進めている私にとって、ミクロ（遺伝子）とマクロ（スポーツ）を関連させた話は非常に新鮮で感銘を受けました。詳しい内容については、当学会のホームページhttp://www.htc.nagoya-u.ac.jp/tspe/からリンクを辿って下さい。なお、発表者決定については時間がなく、世話人からということで下村先生にお話して頂きましたが、今後こういう機会がありましたら公募にしたいと思いますので、よろしくお願い致します。

15年度の計画ですが、8月2、3日に宮村実晴名古屋大学教授を会長に「第11回運動生理学会」が、また、9月19～21日には、星猛　しずおか健康長寿財団理事長（東京大学名誉教授）を会長に「第58回日本体力医学会2003静岡大会」がそれぞれ開催されます。運動生理に関する日本での2大学会大会が同じ年、東海地区で開かれることになります。特に「運動生理学会」は東海体育学会と同じく母体が日本体育学会ということもあり、非常に関連が深いと思われます。実は私がこの学会の事務局長を仰せつかっており、私的な話で恐縮ですが、是非、東海体育学会運動生理分野の方々のご協力をお願いしたいと思っております。なお、「第11回運動生理学会」については、http://www.htc.nagoya-u.ac.jp./unsei11/を、「第58回日本体力医学会2003静岡大会」についてはhttp://plaza.umin.

ac.jp/%7Espomed58/index.htmをご覧下さい。

ということで、15年度の計画としては、運動生理学会大会、体力医学会大会を運動生理分野みんなでバックアップすることを目標としたいと思います。何卒、よろしくお願い致します。

編集委員会活動報告

編集委員会委員長　藤　井　勝　紀

平成14年度の「東海保健体育科学」編集員会としての活動は、年度始めに以下のような活動方針を掲げました。

1．平成14年度 Vol.24 東海保健体育科学の刊行
2．昨年度から懸案となっている学会誌の表紙の体裁を検討
3．学術奨励賞の推薦に関する検討
4．一般投稿数をいかに増やすか
5．学会誌「東海保健体育科学」の位置付けについて
6．財政逼迫の折、編集業務に関わる費用の節約

平成14年度の東海保健体育科学は、Vol.24として、総説1篇、原著論文2篇、資料1篇、キーノートレクチャー1篇の計5編の掲載をすることが出来ました。

昨年度から懸案になっていました東海保健体育科学の表紙のデザインについて、Vol.24から表紙のデザインを大幅に変更しました。すでにお手元にあると思いますが、Vol.25からしばらくはこのデザインで発刊することになると思います。宜しくご了承ください。

学術奨励賞については、Vol.24には残念ながら掲載することは出来ませんでした。次回のVol.25では是非掲載できる事を期待したいと思います。

東海保健体育科学への一般投稿数を増やすことは、難しい取り組みになります。それは、学会誌の位置付けの問題も絡んでくるからです。本年度からは東海体育学会の活性化の一翼を担って学会誌の表紙のデザインを変えました。これがきっかけとなって投稿者が増えればと期待しています。

また、学会誌の位置付けの問題もありますが、明言できることは、東海保健体育科学は独立学会としての発行誌であり、支部学会としての発行誌ではないということです。学会員の業績への貢献を考えれば、査読体制もしっかりしている本学会誌は適切な投稿先になるのではないかと期待します。多くの学会員の投稿をお待ちしています。

続いて平成15年度の編集委員会事業計画を示します。

1．平成15年度東海保健体育科学、Vol.25の発刊
昨年度から新たなジャンルとして、「実践研究」、「事例報告」が設けられたので、これら両ジャンルを含めて、総説、原著論文、資料論文、特別講演の内容掲載等（例えばキーノートレクチャー等）を計画している。
2．学会誌のジャンルの英名について整理、検討する
3．昨年度から引き続き東海保健体育科学への投稿数を募ることの検討
4．東海体育学会として企画した課題研究「情報と身体」の総まとめとして、発表された内容を「東海保健体育科学」に掲載することを検討する。

「東海保健体育科学」編集委員会として、平成15年度は以上の事業計画の遂行に努める所存です。

広報委員会活動報告

広報委員会委員長　島　岡　　清

平成14年度は当初、会報75号、76号を発刊する予定でしたが財政上の理由から75号の発刊のみとし、76号の発刊は15年度に延期することになりました。また、厳しい財政状況から、会報の発行は今後は年１回として、できるだけホームページを活用して広報活動を行うようにする予定です。ホームページは昨年まで日本福祉大のサーバーを利用していましたが、このたび事務局のある名古屋大学に移動しました。新しいＵＲＬはhttp://www.htc.nagoya-u.ac.jp/tspe/です。ただし、移動にともなって従来の内容が失われてしまいましたので現在内容を新しく構築中です。もうしばらくお待ちください。

株式会社ミニミニから本学会の広報活動に対して援助を頂けることになり、14年度は学会大会の市民公開シンポジウムのポスターを制作することができました。会報の発行につきましても今号から印刷費を支援してもらっています。

以上のような事情から、この１年間は広報活動が停滞していましたが、今後は新しい方式による広報活動の充実に務めたいと思っています。

平成13年度東海体育学会収支決算書

平成13年度東海体育学会収支決算書

（自 平成13年１月１日　至 平成13年12月31日）

収　入		支　出		次期繰越	内訳	
￥2,717,800	－	￥2,283,278	＝	￥434,522	郵便貯金	￥418,504
					東海銀行	￥1,125
					現　金	￥14,893

〈収入の部〉

（単位　円）

項　目	予算額	決算額	差引額	備　考
会　費	2,275,000	2,051,000	▲ 224,000	本年度会費　3,500×575名 次年度会費　3,500×　0名 過年度会費　3,500×　11名
入会金	20,000	26,500	6,500	東海体育学会　1,000×20名　本年度19名　過年度1名 日本体育学会　500×13名　本年度13名　過年度0名
補助金	50,000	150,000	100,000	日本教育シューズ協議会 100,000（第49回大会） 日本体育学会支部研究事業 50,000（東海保健体育科学vol.23）
預金利息	1,000	561	▲ 439	
雑　入	5,000	2,000 4,000	1,000	当日会員　1,000×２名（第49回大会） 特別共同研究 1,000×４名（第49回大会）
繰越金	483,739	483,739	0	
合　計	2,834,739	2,717,800	▲ 116,939	

▲は予算超過（収入減）を示す

〈支出の部〉

（単位　円）

項　目		予算額	決算額	差引額	備　考
事務費	通信費	500,000	467,905	32,095	会員宛発送等
	消耗品費	60,000	98,515	▲ 38,515	封筒・タックフォーム・厚紙等
印刷費	東海保健体育科学	400,000	0	400,000	vol.23（平成13年度発行）未払い
	会報	270,000	260,043	9,957	No.74
	学会大会	200,000	288,813	▲ 88,813	第49回大会抄録集・訂正シール・式次第・選挙関連
	研究会・講演会	57,000	80,183	▲ 23,183	講演会資料印刷・案内はがき印刷発送
	事務連絡	20,000	0	20,000	
会議費	理事会	40,000	61,556	▲ 21,556	諸経費（第49回大会）
	担当理事会	20,000	4,100	15,900	諸経費（県外者の交通費を含む）
	研究交流委員会	200,000	88,578	111,422	
	編集委員会	100,000	75,180	24,820	諸経費、郵送費等
交通費		150,000	135,500	14,500	理事会出席の県外理事用
謝金	学会事務	250,000	238,185	11,815	発送手伝い、幹事、事務等
	研究会・講演会	150,000	209,480	▲ 59,480	講師（交通費含む）
	東海保健体育科学編集	30,000	25,240	4,760	英文校閲代等
	ホームページ運用	100,000	0	100,000	
会場費		30,000	0	30,000	
補助金		150,000	150,000	0	大会担当校
東海体育学会学術奨励賞		100,000	100,000	0	年間2件（@50,000×2）春日晃章・高梨泰彦氏
予備費		7,739	0	7,739	
合　計		2,834,739	2,283,278	551,461	

▲は予算超過（支出増）を示す

平成14年２月５日

この決算書は適正であることを認めます。

監事　市野　聖治
　　秦　　真人

平成13年度東海体育学会学術振興基金決算書

平成13年度東海体育学会学術振興基金決算書

（自 平成13年１月１日　至 平成13年12月31日）

収入総額		支出総額		次期繰越	繰越金内訳		
4,740,037円	－	1,350,000円	＝	3,390,037円		証書	3,270,000円
						預金	120,037円
							3,390,037円

〈収入の部〉　（単位　円）

項　目	決算額	備　考	
繰越金	4,730,785	貸付信託証書（三菱信託268180-05　00）	4,500,000円
		貸付信託証書（三菱信託26818005　51401）	120,000円
利息	9,194	証書利息	
	58	預金利息	
合計	4,740,037		

〈支出の部〉　（単位　円）

項　目	決算額	備　考
補助金	1,350,000	東海体育学会50周年記念事業への補助
合計	1,350,000	

平成14年２月５日

この決算書は適正であることを認めます。

監事　市野　聖治

秦　真人

平成14年度東海体育学会予算（修正）

平成14年度東海体育学会予算（13年度繰越金確定に伴う修正）

（自 平成14年１月１日　至 平成14年12月31日）

〈収入の部〉　（単位　円）

項　目	平成14年度予算額	平成13年度予算額	比　較	備　考
会　費	2,275,000	2,275,000	0	本年度会費　3,500×650名
入会金	~~20,000~~	~~20,000~~	~~0~~	東海体育学会　1,000×　20名
補助金	50,000	50,000	0	日本体育学会支部研究事業補助金より
預金利息	1,000	1,000	0	
雑　入	5,000	5,000	0	学会当日会員　1,000×　5名
繰越金	~~450,000~~ 434,522	483,739	▲ 33,739	
合　計	2,785,522	2,834,739	▲ 49,217	

〈支出の部〉　（単位　円）

項　目	平成14年度予算額	平成13年度予算額	比　較	備　考
1. 大会費				
当番校補助費	150,000	150,000	0	第50回東海体育学会当番校への補助
講師謝金(含交通費)	100,000	100,000	0	
2. 刊行費				
印刷製本費				
東海保健体育科学	400,000	400,000	0	vol.24
会　報	270,000	270,000	0	No.75、No.76
学会大会抄録集	200,000	200,000	0	第50回大会抄録集
発送費		500,000		
東海保健体育科学	200,000			vol.24
会　報	140,000			No.75、No.76
学会大会抄録集	100,000			第50回大会抄録集
3. 常置委員会費				
編集委員会	100,000	130,000	▲ 30,000	幹事・ディクテーションの報酬を含む
企画委員会	20,000	20,000	0	会議費、交通費
研究交流委員会	237,000	307,000	▲ 70,000	会議費、交通費、謝金
広報委員会	20,000		20,000	会議費、交通費
ホームページ運営	100,000	100,000	0	謝金・幹事
学会大会委員会	20,000		20,000	会議費、交通費
庶務・会計委員会	~~30,000~~		~~30,000~~	会議費、交通費、幹事
理事会	150,000	190,000	▲ 40,000	会議費、交通費
4. 運営事務費				
人権費	~~250,000~~	~~250,000~~	~~0~~	発送手伝い、事務等
事務費	210,000	80,000	130,000	印刷費、通信費、電話代、諸謝金
5. 東海体育学会学術奨励賞	100,000	100,000	0	年間２件（@50,000×２）
6. 予備費	▲ 11,478	7,739	▲ 19,217	
（会場費）	0	30,000	▲ 30,000	
合　計	2,785,522	2,834,739	40,783	

【事業および会計報告】

平成14年度事業報告

1．庶務委員会

・会員数　613名

・理事会の開催年７回

2．広報委員会

・会報の発行　No.75（2002.1.25）

・ホームページの移動

3．企画委員会

1）課題研究「情報と身体」
　５回の研究会を開催

2）東海体育学会研究セミナー
　課題研究「情報と身体」の第５回研究会「メディア情報とスポーツ」を研究セミナーを兼ねて実施

3）第50回東海体育学会における講演会の開催

4）研究交流委員会主催の講演会の講演
　２回の講演会を後援
　　於：愛知大学、愛知教育大学

5）研究交流委員会の開催と活動支援
　　於：南山大学（02.5.18）
　第50回東海体育学会におけるシンポジウムの開催

4．学会大会委員会

・第50回大会の開催（名古屋大学）

5．編集委員会

・東海保健体育科学の発行　Vol.24
　（2002.12月下旬）

平成15年度東海体育学会予算（案）

平成15年度東海体育学会予算

（自 平成15年１月１日　至 平成15年12月31日）

〈収入の部〉　（単位　円）

項　目	平成15年度予算額	平成14年度予算額	比　較	平成13年度決算額	備　考
会　費	2,100,000	2,275,000	▲ 175,000	2,051,000	本年度会費　3,500×600名
入会金	20,000	20,000	0	26,500	東海体育学会　1,000× 20名
補助金	50,000	50,000	0	150,000	日本体育学会支部研究事業補助金より
預金利息	1	1,000	▲ 999	561	
雑　入	5,000	5,000	0	6,000	学会当日会員　1,000×　5名
繰越金	▲ 11,478	434,522	▲ 446,000	483,739	
合　計	2,163,523	2,785,522	▲ 621,999	2,717,800	

〈支出の部〉　（単位　円）

項　目	平成15年度予算額	平成14年度予算額	平成13年度決算額	比　較	備　考
1. 大会費					
当番校補助費	150,000	150,000	150,000	0	第51回東海体育学会当番校への補助
講師謝金(含交通費)	60,000	100,000	78,320	▲ 18,320	
2. 刊行費		0			
印刷製本費		0			
東海保健体育科学	360,000	400,000	0	360,000	vol.25
会　報	140,000	270,000	260,043	▲ 120,043	No.76
学会大会抄録集	150,000	200,000	189,525	▲ 39,525	第51回大会抄録集
発送費		0			
東海保健体育科学	200,000	200,000	0	200,000	vol.25
会　報	70,000	140,000	0	70,000	No.76
学会大会抄録集	50,000	100,000	153,840	▲ 103,840	第51回大会抄録集
3. 常置委員会費		0			
編集委員会	70,000	100,000	100,420	▲ 30,420	幹事・ディクテーションの報酬を含む
企画委員会	30,000	20,000	115,260	▲ 85,260	会議費、交通費
研究交流委員会	150,000	237,000	188,761	▲ 38,761	会議費、交通費、謝金
広報委員会	10,000	20,000	0	10,000	会議費、交通費
ホームページ運営	20,000	100,000	0	20,000	謝金・幹事
学会大会委員会	10,000	20,000	0	10,000	会議費、交通費
庶務・会計委員会	20,000	30,000	10,000	10,000	会議費、交通費、幹事
理事会	130,000	150,000	197,056	▲ 67,056	会議費、交通費
4. 運営事務費		0			
人権費	230,000	250,000	228,185	1,815	発送手伝い、事務等
事務費	210,000	210,000	511,868	▲ 301,868	印刷費、通信費、電話代、諸謝金
5. 東海体育学会学術奨励賞	100,000	100,000	100,000	0	年間２件（@50,000×２）
6. 予備費	3,523	▲ 11,478	0	3,523	
(会場費)	0	0	0	0	
合　計	2,163,523	2,785,522	2,283,278	▲ 119,755	

▲は平成13年度決算額に対しての減額を示す

平成14年度東海体育学会総会報告

庶務委員会委員長　西　田　　保

平成14年度の東海体育学会総会は、平成14年11月９日（土）名古屋大学シンポジオン１階ホールにおいて開催されました。司会者の西田保理事（名古屋大学）による開会の辞で始まり、東海体育学会加賀秀雄会長からご挨拶が述べられました。引き続いて、宮村實晴第50回記念大会実行委員長より当番大学を代表して歓迎のご挨拶がなされました。

議長団として理事会選出の八木規夫会員（三重大学）および蛭田秀一会員（名古屋大学）が承認され、両会員を議長として審議が行われました。以下には、総会次第に沿った審議内容の概要を示します。議事に先立ち事務局から総会資料が配布されました。なお、出席者は約60名でした。

１．平成13年度事業及び決算報告

寺田邦昭理事長より総会資料に基づき、平成13年度に行われた各担当委員会の事業について報告があり、承認されました。また、理事長より同年度の収支決算が報告されました。当日は監事が公務のため欠席していましたが、会計処理が適正に行われたとの監査報告を山本裕二会計委員長が代理で報告し承認されました。

２．平成14年度予算の修正

寺田理事長より総会資料に基づき、前年度繰越金の確定に伴う平成14年度予算の修正が説明され、承認されました。

３．平成14年度事業報告（中間）

寺田理事長より総会資料に基づき、「庶務委員会」「学会大会委員会」「選挙管理委員会」の事業について中間報告がなされ、承認されました。また、「広報委員会」「企画委員会」「編集委員会」に事業については、各担当委員会の委員長により総会資料に基づき報告され承認されました。

４．平成15年度事業計画及び予算案

寺田理事長より総会資料に基づき、平成15年度の事業計画及び予算案が提案され、いずれも承認されました。

５．第51回大会当番校について

寺田理事長より、理事会において平成15年度第51回大会の当番校を名城大学に決定したことが報告され、審議の結果承認されました。引き続き、当番校を代表して同大学の槙野均会員からご挨拶がありました。平成15年11月９日（日）を予定しているとのことでした。

６．その他

加賀会長より、東海体育学会への長年の協力に対し「教育シューズ振興会」および「教育シューズ東海」へ感謝状が贈呈されました。

審議事項の終了後、議長団より議事がスムーズに進行したことに対する感謝の意が述べられ解散されました。その後、司会者の閉会の辞で総会を閉じました。

東海体育学会第50回記念大会を終えて

宮　村　実　晴（名古屋大学）

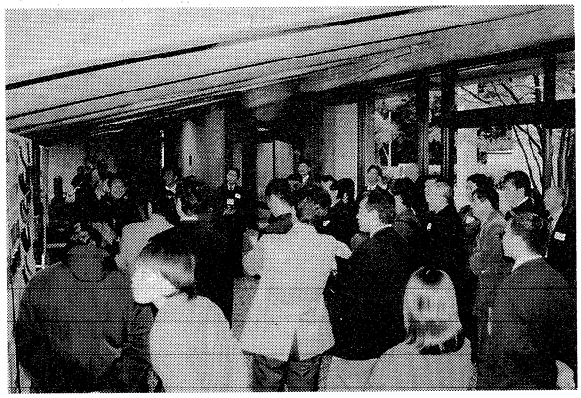
東海体育学会第50回記念大会は、平成14年11月９日（土）、10日（日）の２日間、名古屋大学東山キャンパス豊田講堂およびシンポジオンで開催されました。大会初日の午前は、２つのシンポジウム（実践的研究データの今日的活用を探る、日韓W杯は日本のサッカーをどう変えたか？）と加賀秀雄先生による会長講演（新世紀へ向けての新たなる飛躍をめざして－東海体育学会第50年の歩みから－）（写真１）が行われました。午後は理事会、総会に引き続づき名古屋学芸大学学長井形昭弘先生によるユーモアを交えた特別講演（明るい長寿社会－健康づくりにおける運動の重要性－）（写真２）とポスターによる一般研究発表が行われました。特に豊田講堂１階ロビーで行われたポスター発表（30題）では、ポスター前で発表者と学会員との間で熱い討論が続づけられました（写真３）。そして午後５時よりシンポジオン２階レストラン（ユニバーサルクラブ）で懇親会が行われましたが、58名が参加され川島虎雄、木村吉次両顧問からも暖かい祝辞とエールをいただき、楽しく且つ有意義な一時を過ごすことができました。

第２日目においては、午前「古武術から見る21世紀の身体性」と午後「スポーツのポテンシャル」という２つの市民公開シンポジウムが開催されました。２つのシンポジウムにおいて魅力ある話題が幾つか取り上げられましたが、特にシンポジストによる古武術特有の技の披露あるいは一流選手を育成する過程における色々な問題点は聴衆にとって感銘を与えたものと思われます。シンポジウムの後半に各演者に対して多くの質問が集中し討論の時間が足りないくらいだったことがそれを裏づけています。

今振り返ってみますと反省点も多くありますが、本記念大会に２日間で会員151名と会員以外52名、計203名の参加者を得て盛大の内になんとか無事終えることができました。これもひとえに学会当局、名古屋大学および関係各位のご協力のおかげと心から感謝いたしております。と同時に本記念大会開催にあたり多大なるご支援・ご賛助を賜りました多くの団体・企業

１．加賀東海体育学会会長の講演（写真１）

２．井形名古屋学芸大学学長の特別講演（写真２）

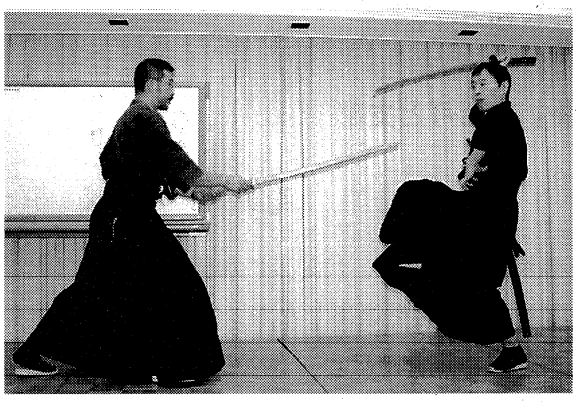


３．ポスター発表風景（写真３）

に対しましても、実行委員会を代表して、衷心よりお礼申し上げます。

最後になりましたが、本記念大会を礎に東海のみならず我が国の体育学のさらなる発展と次回名城大学が当番校として開催される第51回大会の成功を祈念いたしております。

5．公開シンポジウム「スポーツのポテンシャル ー潜在力を見つけて伸ばすー」
左より　山田耕二氏、高橋繁浩氏、蒲生晴明氏



4．公開シンポジウム「古武術から見る21世紀の身体性」右が講師の甲野善紀氏

6．懇親会風景

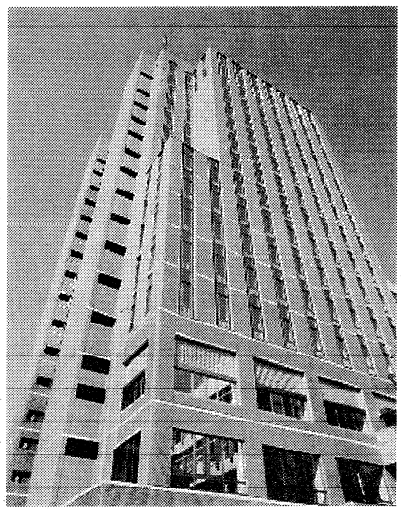
東海体育学会第51回大会のご案内

学会担当理事　冨　岡　　徹（名城大学）

東海体育学会第51回大会は、平成15年11月9日（日）名城大学天白キャンパスにおいて開催されることとなりました。新たな半世紀を迎えた節目の年に当番校としてお引き受けすることに重責を感じております。

名城大学天白キャンパスは、地下鉄鶴舞線塩釜口駅より徒歩8分の位置にあります。昨年16階建ての高層棟「タワー75」と5階建ての「共通講義棟」が建設され、2002年12月より供用されています。当日の学会大会もこの施設を利用し、新たなＯＡ機器を使用して開催する準備を進めております。また、懇親会は「タワー75」の15階にあり名古屋市内が一望できる「レセプションホール」にて開催の予定です。

今後のスケジュールについては、大会案内を6月上旬に発送、研究発表申込は7月末、抄録原稿締切は9月中旬を予定しております。発表方法は、ＯＨＰ（紙のまま



映写)、ＶＴＲや配布資料に加え、MS-Power Pointなどパソコンを使用した方式も取り入れる予定です。また、参加申込や抄録原稿送付用にメールアドレス(tspe51@ccmfs.meijo-u.ac.jp)を取得し経費削減にも取り組んでおりますので、ご利用下さい。詳細は、第51回大会事務局ホームページ（http://wwwbiz.meijo-u.ac.jp/~tomioka/tspe/）においてもご案内する予定ですのでこちらもご覧下さい。

キャンパス再開発は現在も継続中であり、工事中の建物もあって見苦しい点もあろうかと思いますがご了承下さい。名城大学としては新設校舎によって体育学やその関連分野における研究の成果と課題が討議されることは、新たな幕開けとして光栄に存じます。会員の皆様多数のご参加を心よりお待ちしております。

日本体育学会本部情報

「社団法人日本体育学会」の認可と支部

理事　庄　司　節　子

日本体育学会は平成14（2002）年6月28日付けで、社団法人日本体育学会となりました。それに伴い、最高議決機関である総会は、従来の全正会員を対象とする総会が消滅し、役員及び代議員によって組織されることになります。すでに、役員及び代議員の選挙は、昨年の認可後に実施されています。そこで、重要な議決権を委ねるという意味において、その選出の概略を述べておきます。

まず、正会員の代表である総会の構成員となる代議員は、支部及び専門分科会に所属する正会員の直接選挙によって支部代議員（40名）及び専門分科会代議員（40名）が選出されます。執行機関である理事会については、支部代議員の互選による支部理事９名及び専門分科会代議員の互選による専門分科会理事９名と会長推薦理事２名から構成（20名）されます。この理事会の会長、副会長及び常務理事は、支部理事及び専門分科会理事の互選によります。また、監事は代議員の互選による監事１名と会員以外適任者の監事1名が定められます。しかし、これらの理事、監事の役員は代議員を兼ねることができないため、役員が選出された支部及び専門分科会では、次点者をもって代議員を補います。東海支部の場合、代議員に加賀秀雄会員、北川薫会員の2名を選出したが、支部理事に北川会員が選出されたため、次点の池上康男会員が支部代議員になっています。

組織のスリム・効率化が図られたこの新体制では、従来の全正会員を対象とした総会消滅への対応として、議決内容の透明化を図るための配慮がなされています。大会時プログラムに盛り込まれる全会員向けの学会活動報告がそれであり、今年度の第53回大会埼玉大学の場合、10月13日に計画されています。

こうした法人化後の検討課題としては、すでに第51回大会（奈良女子大学、平成12年度）総会に提出されています。それを要約すると、

1．本部、支部、専門分科会の個別及び関連の事業
2．理事会各委員会組織の効率・機能化
3．学会誌の拡充及び、支部、専門分科会の機関誌との関連整備

の３点になります。現在、これら課題の具体的ないくつか、たとえば、大会時の専門分科会・合同シンポジウム開催、「体育ワールドサミット」報告書の翻訳出版、今年度中の国際誌創刊号発行、60周年記念刊行事業（記念誌・学術用

語集）の決定などが着実に進められています。しかし、支部との関連問題は、具体的に取り組まれてはいないといえます。

本部と支部との関連は、新体制の代議員選挙時にも見えていましたが、支部単位のあり方と選挙についての早急改善があげられます。支部代議員選出数（平成12年１月１日現在）にかかわる会員数は、県単独支部の少人数（26名、理事１名）や、愛知・三重・岐阜・静岡の4県連合の東海支部のように全国２番目の多人数（605名、理事２名）もあり、偏りが大きいといえます。また、東海支部では、支部の理事選挙か、或いは本部の代議員選挙のどちらかが、毎年実施されることになり、支部組織の効率化の点から改善が求められます。

以上が法人化という転機に遭遇した時期に気づいている問題点です。本部と支部との両輪関係の検討は、今後も望みたいと思います。

事務局だより

庶務委員長　西　田　　保

名古屋大学総合保健体育科学センターが事務局をお引き受けして４年目に入りました。会員の皆様のご理解とご協力ならびに庶務・会計幹事をはじめとする優秀なスタッフに支えられ、事務局としての職務は大過なく進んでいるように感じています。

さて、今年の第51回大会は、平成15年11月９日（日）に名城大学にて開催されることが決定しました。現在のところ、槙野均大会実行委員長および冨岡徹理事を中心として様々な計画が進められています。大いにご期待下さい。

学会大会時には役員改選が行われます。正会員の郵送投票（７月頃実施予定）によってあらかじめ選出された会長および理事候補者に対して、総会に出席した正会員が投票を行うことによって最終的に会長と理事が選出されます。会員の皆様におかれましては、郵送投票ならびに学会当日での役員選挙に、格別のご協力を頂きますようよろしくお願い致します。

最後に、入退会や住所変更、ご質問などがございましたら、事務局までご連絡頂きますようお願い致します。

会員の消息

（平成15年２月14日現在）

＊新入会員

山根　　基（中京大学）
加藤　　渡（一宮短期大学）
望月　知徳（中京大学大学院）
神事　　努（中京大学大学院）
林　　享（中京大学体育学部体育学研究科）
大窄　貴史（中京大学大学院）
垂井　彩未（中京大学）
中島　敬二（名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科）
室伏　由佳（中京大学）
田中　智子（愛知教育大学大学院）
森　　勇次（愛知教育大学保健体育講座）
大塚　泰之（静岡大学杉山康司研究科）
松浦　義行（静岡大学）
川浪　憲一（名古屋市立大学分子医学研究所）
逢坂　十美（四国学院大学）

水藤　弘吏（三重大学大学院教育学研究科）

＊転入会員

塩原　克幸（㈶岐阜県イベント・スポーツ振興事業団）

中原かおり（㈱クリエイティブライフサークル）

谷口裕美子（金城学院大学）

＊転出会員

高木　英樹（三重大学教育学部）

松本　秀夫（東海大学海洋学部）

長岡由紀子（中京大学：研究生）

村本　名史（愛知淑徳大学 健康科学教育センター）

來田　享子（愛知学泉大学 コミュニティ政策学部）

＊退会会員

吉田　昭裕（静岡県磐田郡福田町立福田小学校）

渡辺　俊彦（名古屋大学総合保健体育科学センター）

倉田　順子（芥田学園高等学校）

松井　信夫（中京大学）

徳田　潤子（桜花学園大学）

渡辺　　悟（藤田保健衛生大学）

村山　　勝（三保マリンアカデミー）

丸地　八湖（愛知教育大学）

林　千代子（椙山女学園大学）

野崎　哲郎（名古屋商科大学）

森下　千端（皇学館大学）

山本　輝夫（愛知県瀬戸市立品野中学校）

柴田　一男（大同工業大学）

堀本　　宏（中京女子大学）

＊住所変更

大塚　　隆（〒410-0302 沼津市東椎路1244-1）

杉山　　和（〒462-0021 名古屋市北区成願寺1-6 A3104）

稲垣　良介（〒507-0073 岐阜県多治見市小泉町6-115-35）

＊送付先・住所変更

青山　昌二（〒519-1109 三重県九居市島木町409-20）

岡本　昌也（〒488-0827 尾張旭市吉岡町1-3-15）

内藤　耕三（〒441-8107 豊橋市南栄町空地100空地住宅5-503）

＊所属・送付先変更

杉浦　義信（湖西市立知波田小学校：静岡県湖西市大知波1144）

稲垣　良介（瑞浪市立釜戸中学校：〒509-6472 瑞浪市釜戸町3361-3）

田中　秀行（静岡大学教育学部保健体育講座：〒422-8529 静岡市大谷836）

会員の消息連絡先：東海体育学会事務局

電　話：090－7692－7187

ＦＡＸ：052－789－3957

E-mail：tspe@htc.nagoya-u.ac.jp

編集後記

昨年より年１回の発行となったため、久し振りに会報76号をお届けします。印刷費の節約のために必要最小限の内容となっています。ただし、今号から株式会社ミニミニの支援を受けることになりましたので、第50回大会の写真を多数掲載することができました。本欄をお借りしてお礼申し上げます。今後は海外留学記等の読み物も復活させるなどして、読みがいのあるものにできればと思っております。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

広報委員長　島岡　清（名古屋大学）

東海体育学会会報　No. 76

発行日　2003年４月22日　　**発　行**　東海体育学会　　**編　集**　広報委員会

事務局　〒464-8601　名古屋市千種区不老町名古屋大学総合保健体育科学センター内 東海体育学会
TEL090－7692－7187 FAX052－789－3957

メール　tspe@htc.nagoya-u.ac.jp　　**ホームページ**　http://www.htc.nagoya-u.ac.jp/tspe/

郵便振替　**名古屋7-41336 東海体育学会事務局**